

令和6年度学生による授業評価にもとづく学長表彰

講義への取り組みと工夫—「学ぶことは楽しい」—

医療栄養学科 大杉 順子

4年次には国家試験を控えているため、1年次から「学ぶことは楽しい」と感じられる講義を心がけ、2年次以降につながる学びを意識し、適度な余裕を持った講義内容にしています。学生の理解を深めるためにYouTubeや身近な事例を活用し、分かりやすい言葉でイメージしやすく、工夫しています。前半部分の小テストを行い、知識の定着と定期試験への意欲向上につなげています。Learning Boxで過去問題を○×形式で作成し、隙間時間を利用して定期試験や国家試験対策に取り組めるようにしています。グループワークではディベートを取り入れ、講義で学んだ内容をテーマに科学的根拠に基づいて、自分の考えを整理し発表する力を養います。リフレクションシートの実施後は、結果についてフィードバックを行っています。今後も、学ぶことの楽しさを実感できる講義を目指し、工夫と改善を重ねていきたいと思います。

「運動療法学総論」における体験から始まる学び

リハビリテーション学科 伊藤 卓也

本講義は、理学療法の中核となる運動療法の基礎を学ぶ科目です。しかし学生の多くは、理学療法や理学療法士の仕事内容を具体的にイメージできていないため、学習意欲が低く、目の前の試験対策に終始しがちです。そこで、学生が理学療法への興味や理解が深められるように、以下の二つの工夫を試みました。

①教員の体験談を話す：授業内容に関連する教員自身のリアルな体験談を話すことで、学習内容を身近な「自分ごと」として捉えさせ、理学療法への興味や関心を高めることを目指しました。

②「勉強」から「学習」への転換を促す：単なる知識の暗記に留まる「勉強」ではなく、経験を通じて知識や技能を身につけ、長期的な成長につながる「学習」を重視しました。体験から始まる学びを意識し、体験・グループ学習と座学を組み合わせ、理学療法への理解を深めることを目指しました。

講義「疫学」における取り組みと工夫

薬学科 坂 晋

私が担当する薬学科3年生の必修科目「疫学」では、学生の深い理解を促すため、複数の工夫を凝らしている。この講義では、穴埋め形式の配布資料やe-learningシステム（ESS）の演習問題を取り入れ、学生の理解度を確認しながら進めている。講義終了後には、成績評価に影響しない小テストを実施している。この小テストでは、受講生に資料の参照や他学生との相談を許可しており、これにより不明な内容に直面した場合の解決へのアプローチ方法も習得できるようにしている。また、復習用に、演習問題の解説、小テストの解答例、スライド資料をlearningBOXにアップロードし、質問には当日中、遅くとも翌朝までにMellyなどを用いて回答することを心がけ、学生の意欲を低下させないように努めている。そして、定期試験では、学生の能動的な学習が結果に結びつくように構成している。このような私の取り組みが、学生の満足度を高め、向学心の向上に役立つことを願っている。